

こんにちは

日本共産党品川区議会議員

鈴木ひろ子



事務所 中延2-11-7
日本共産党品川地区委員会
日本共産党区議団控え室

TEL3783-8833
TEL3785-2810
TEL5742-6818

このニュースについてのご意見、ご要望をお寄せください。

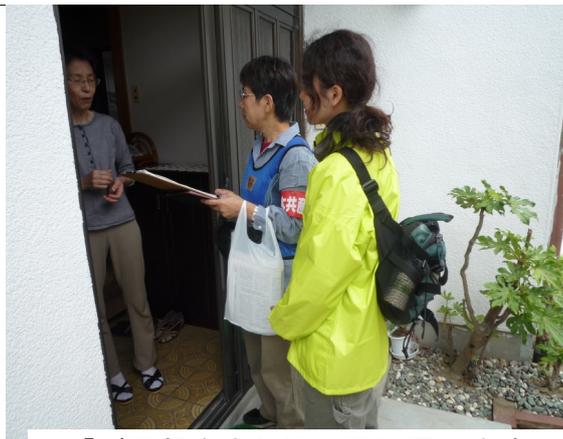
宮城県石巻ボランティア報告 (その2)

ヘドロ出し、要望の聞き取り

「自分たちではできないので助かります」



(南区議とペアーで側溝のヘドロ出し。左が南区議、右が私です)



(「ご要望を市や県、国に届けます」と3人1組で1軒1軒訪問)



7月20～22日まで参加した石巻ボランティア。 (報告その1は7月31日ひろ子ニュース・No.409号) 2日目は地域に入り、困りごとや要望の聞き取り、3日目は側溝にたまったヘドロ出し。地域の方の思い、被害の実態を直接お聞きすることができ、またヘドロ出しでは大変喜ばれました。

2日目は、津波で1軒超浸水し、4方の手作りの巾着袋を届けながら「お困りごとやご要望をお聞かせいただき、中里地区に入り3人一組で訪問活動。支援物資として届いた野菜と新婦人の」と、どの家でも快く迎えてくださいました。地域で共産党のボランティア活動や日頃の共産党市議さんの活動が評価をされていることに嬉しくなりました。

(裏面に続く)

「国からの支援金がまだ届かなくて大変…」

●床上浸水し、4〜5日水が引かなかった。床、畳、壁紙全部換えた。義援金が6月に18万円出たきり。大規模半壊で50万円出る予定だがいつになるかわからない。早く出してほしい。

●友人が二重ローンを苦に自殺した。二重ローンの対策をとってほしい。会社が立ち直ってこそ復興。その支援をしてほしい。

●公園がごみ置き場になり、こどもたちは仮設住宅。子どもたちの遊び場がない。



(作業後、地域の方々と記念撮影)

変。早く義援金や支援金を出してほしい。

●自宅が津波で全壊し、娘の家に避難している。弟一家が津波で流された。これからどうしたらいいか。など、大変な実態が語られ、要望が出されました。

子どもが友人が女川で津波に流されたという女性の方は、その様子を涙ながらに話され、私たちも一緒に泣いてしまいました。新婦人の方々の手作りの巾着袋は一つ一つにメッセージが書かれており、どこでも「こういう気持ちがあるらしい」と喜ばれました。

「ヘドロ出し、ほんとにありがたい」

3日目は側溝のヘドロ出し。朝8時に集合し9時から作業開始。夕方4時頃まで約20人で行いました(表面写真)。

防塵マスクと厚手のゴム手袋、長靴で身支度をし、いざ作業。ヘドロは側溝の8割もたまっており、家々からの排水も雨の時間もスムーズに流れず、道にあふれ、虫がわく状態です。

高齢のご夫婦は「自分たちではとてもできないので本当に助かります。水道は自由に使って

木曾の御嶽山(3067m)に登りました (おんたけさん)



明け方まで雨、深い霧で朝日は無理とあきらめたその時、奇跡的にご来光。左は御嶽山をバックに夫と私。



下さい」とホースとバケツを準備して下さいました。一人暮らしの高齢者は「本当にありがたい」と涙ながらに喜び、ジュースをいただきました。地域の方々の感謝の言葉に、足腰の痛みも暑さも吹き飛びました。

最後には周りをホースの水で綺麗に洗い、地域の方からの差し入れの冷えたお茶を頂き、地域の方々と記念撮影(写真・上)をして作業終了でした。

日本共産党の石巻ボランティアアセンダーでは8月5日現在、

ボランティアがのべ3338人、支援物資のお届け数は296回、お届けした方の人数は2万1417人、要求の聞き取りは1193軒行ってきました。

被災地の復興はまだまだです。瓦礫の処理もまだ3分の1。政争に明け暮れ、未曾有の大災害にも機能しない政治、大災害を千載一遇儲けのチャンスと狙う大企業。引き続きボランティア活動と共に被災地、被災者に寄り添う政治への転換が必要だと思います。

8月10・11日、頂上の山小屋に一泊し、御嶽山に登ってきました。

田の原口からのコースは、頂上までとにかく急な登りが続きます。夫は途中バテていました。頂上山荘ではお風呂を沸かしてくれ、サッパリ。3000円を超えた山頂でお風呂に入れるなんてしあわせ。木曾のなご御嶽山は：夏でも寒いヨイヨイヨイ」という歌の通り、朝夕上着なしでは過ごせないほどの寒さでした。

夜中から朝方まで雨。ご来光は絶対無理とあきらめたその時、厚い雲間に朝日が差し込みました(写真)。